

富士山防災学習カリキュラムの構築

秋本梨恵・勝又信行・吉村千秋（産業技術センター）

吉本充宏・本多亮・久保智弘・亀谷伸子・山河和也・秋葉祐理・岡田夏美
（山梨県富士山科学研究所）・矢守克也（京都大学防災研究所）・酒井
慎一（東京大学地震研究所）・内山美恵子（都留文科大学）・横山光（北
翔大学）・三ツ井聡美（筑波大学）・藤巻桂吾（忍野村立忍野小学校）

背景

- 災害の軽減には「主体的な行動」が重要
- 生徒が自ら考えて防災を学ぶための教材が必要
- 小学校・中学校を通して学ぶ体制が必要
- 火山・地震の防災学習には実験教材が有効

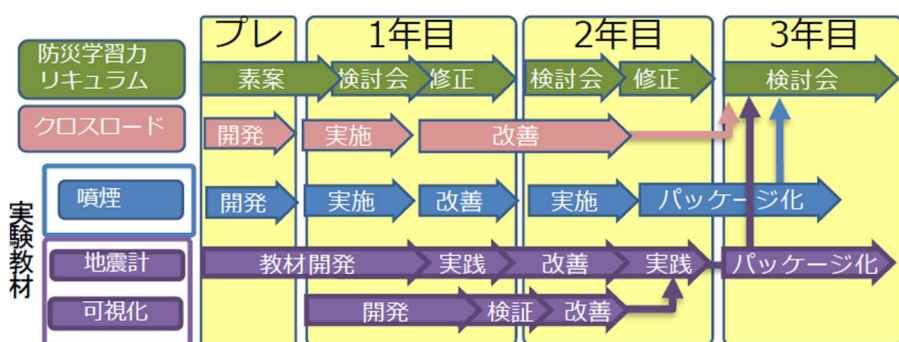


クロスロードを用いた火山防災学習

目的

科学的知識と防災心理学に基づいて**主体的な行動(事前対策・避難)**ができる人材の育成に資する**カリキュラム**および**教材**を開発する

内容



防災学習カリキュラム：小4から中3までの理科・社会科と総合的な学習を防災学習でつなぐカリキュラム
クロスロード：災害時分岐に立たされた際に考える力をつけるカードゲーム式の防災教材
実験教材：火山（噴煙実験教材）、地震（簡易地震計を使った教材、可視化ツール）

産業技術センターでは、主に実験教材（火山の噴煙実験装置）の改良を担当。



試作中の小型立体タイプの噴煙実験装置

- ・ 実験装置及び使用マニュアル、解説用の資料等のパッケージ化を目指す。
- ・ 噴煙実験装置は使いやすさだけでなく、コストや調達の一やすさにも留意して複数のタイプを試作。
- ・ 令和7年度は、短時間で準備が可能な噴煙実験装置の改良、噴煙実験装置の使用マニュアルに活用可能な動画の制作に取り組んだ。

今後の課題

実験装置やテキストを使った実践授業を公開授業として実施し、現場教員の声を反映し、改善を図りながらパッケージ化に取り組む。